

一般書

推し、燃ゆ 宇佐見りん (著)



第164回芥川賞受賞作

推しが炎上した。ままならない人生を引きずり、祈るように推しを推す。そんなある日、推しがファンを殴った。

逃避でも依存でもない、推しは私の背骨だ。アイドル上野真幸を“解釈”することに心血を注ぐあかり。ある日突然、推しが炎上しー。デビュー作『かか』は第56回文藝賞及び第33回三島賞を受賞(三島賞は史上最年少受賞)。21歳、圧巻の第二作。

心淋し川 西條 奈加 (著)



第164回直木賞受賞作

不美人な妾ばかりを囲う六兵衛。その一人、先行きに不安を覚えていたりきは、六兵衛が持ち込んだ張形に、悪戯心から小刀で仏像を彫りだして…(「閨仏」)。飯屋を営む与吾蔵は、根津権現で小さな女の子の唄を耳にする。それは、かつて手酷く捨てた女が口にしていた珍しい唄だった。もしや己の子ではと声をかけるが—(「はじめましょ」)他、全六編。生きる喜びと哀しみが織りなす、渾身の時代小説。

オルタネート 加藤シゲアキ (著)



高校生限定のマッチングアプリ「オルタネート」が必須となった現代。東京のとある高校を舞台に、若者たちの運命が、鮮やかに加速していく。

全国配信の料理コンテストで巻き起こった〈悲劇〉の後遺症に思い悩む蓉(いるる)。母との軋轢により、〈絶対真実の愛〉を求め続ける「オルタネート」信奉者の凧津(なづ)。高校を中退し、〈亡霊の街〉から逃れるように、音楽家の集うシェアハウスへと潜り込んだ尚志(なおし)。恋とは、友情とは、家族とは。そして、人と“繋がる”とは何か。デジタルな世界と未分化な感情が織りなす物語の果てに、三人を待ち受ける未来とは一体——。

“あの頃”の煌めき、そして新たな旅立ちを端正かつエモーショナルな筆致で紡ぐ、新時代の青春小説。

えほん

ママはかいぞく カリーヌ・シュリュグ（著）レミ・サイヤール（イラスト）



ぼくのママは かいぞくなんだ。

ふねのなまえは 〈カニなんてへっちら〉 ぞう。

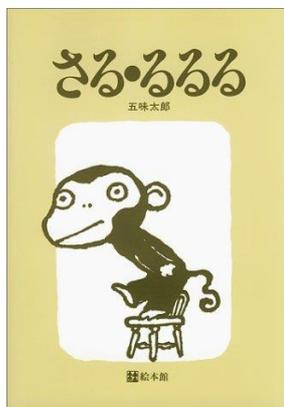
もう なんかげつもまえから ママは たからのしまを めざして、かいぞくなかまと そのふねで たびをしている。

たびから かえってくると、ママは いつも とてもつかれているみたい。

このえほんには、もうひとつのおはなしがかくれています。

主人公の少年のママは、日々、海賊の仲間たちと宝島を目指して航海に出かける。帰宅すると具合が悪そうにぐったりするママ……。日に日に元気がなくなり、食欲も落ちていくが、宝島を見つけた日を境に元気を取り戻していく。一見、たわいないストーリーだが、裏の真のストーリーに気づいたとき、感動が押し寄せてくる。類のない、大人も楽しめる仕掛け絵本。フランスで話題に。

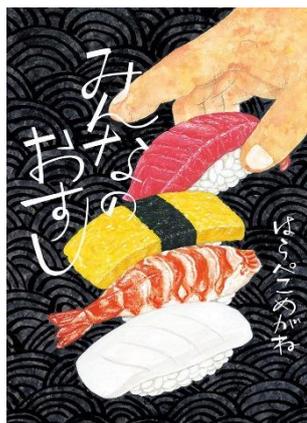
さる・るるる 五味 太郎（著）



さるが朝目覚めてから、夜ベッドに入るまでの1日のお話。ページをめくるごとに「る」で終わる2文字の言葉で物語が進む。

「さる・くる」さるがやってくる。りんごの木を「さる・ける」。りんごを「とる」、「うる」。そして竹馬を「える」、けがをしてくすりを「ぬる」。最後はベッドに「ねる」。全部で14の「る」だけで成り立っているが、2文字以外のお話を親子で考えるのも楽しい。絵は2色刷りでシンプルなもの。筆で描かれたような、にじんだ輪郭があたたかい。さるの動作はどれもユーモラスで楽しく、特にりんごを受けとめようとしている一生懸命な表情がいい。2文字のリズムは耳に楽しく、言葉を覚えはじめた0歳児からの幼児向け。言葉遊びのきっかけになり、親子で楽しめる本。（加久田 秀子）

みんなのおすし はらぺこめがね（著）



へい、らっしゃい!うちのすし屋にはあじ、いか、まぐろ、なんでもあります。ちょっとかわったおきやくさんにも、ぴったりのおすしをにぎりますよ。どんなものでもおすしにするのがわたしのしごと。なんてたって、うちのおすしはみんなのおすしですからね。おもしろくて、ちょっとこわい? おなかを空かせたお客が集まる、すし屋のお話。ここはすし屋さん。きょうもすし職人ははりきってすしをにぎります。お客さんはお仕事帰りのおじさんに、なかよし親子。不思議なお客さんもやってきて、最後はすし職人の秘密が明かされます。

鬼滅の刃 しあわせの花

吾峠 呼世晴（著） 矢島 綾（著）



立ち寄った村で婚礼に招待された炭治郎たち。禰豆子と同じくらいの年である花嫁の艶姿を見て、炭治郎は妹の倅せを思う。

その他、鬼殺隊の本編では語られなかった出来事が明らかに。

我妻善逸がはじめて鬼を斬ったその日の出来事とは。

炭治郎、善逸、伊之助の『女難の相』とは。

蝶屋敷の少女たち、アオイとカナヲのひそやかな一日の出来事とは。

そして大好評番外編『キメツ学園』のノベライズも。

吾峠先生完全監修、描きおろしイラストも多数収録。ファン必見の一冊になること間違いなし。

人気シリーズ続巻

ふしぎ駄菓子屋 銭天堂 4 廣嶋 玲子（著）， jyajya（イラスト）



その駄菓子屋にライバル店、あらわる。

「へえ。紅子のところに客が来たんだね。うってつけだよ。ちょうど菓子の素もできあがったところさ。ふふふ。紅子。あんたの客があたしの菓子にくらげえしたら、あんたのすました顔はどんなふうになるんだろうねえ？くくく、楽しみだねえ」少女はべろりと舌なめずりをした。けもののような、真っ赤な舌だった……。

紅子からよどみへ……。

菓子の勝負はうらみっこなしでおねがいしとうござんす。

進撃の巨人(32)



ダンジョン飯(9)



コミック

